



「第三回暁まいい福男福女競走」を終えて

まつり委員会 委員長 情野 裕仁

去る2015年02月10日(火)夜20時、「第三回暁まいい福男福女競走」を開催させて頂きました。まずは、本事業の主旨に賛同し、参加して頂いた参加者の皆様、開催にあたって多大なるご協力、ご協賛頂いた各企業、団体、個人の皆様に改めてこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私達まつり委員会は今日地域が抱える問題の一つとしてコミュニティの崩壊があり、それに震災の影響が拍車をかけ、地域の特色、良い所というのが次世代に受け継がれにくくなっている現状があると考えました。そして、この事業はそれらの問題と向き合い、福島の地域資源である「信夫三山暁まいい」を市民に知っていただき、歴史、文化を理解し伝える機会、継がれる機会の場を創出する事が、コミュニティ再興の一助となり、ひいては地域の健全な発展に役立つのではないかと考え事業を開催させて頂きました。

冬の夜に福島市内の真ん中にそびえ立つ信夫山山麓大鳥居から旧参道の急坂を



大会前の設営準備説明は念入りに行います

社まで駆け抜ける…。前回まではお昼の開催だったのに、どうして今回は夜間開催かについて御説明させて頂くと、「暁まいい」のメインは10日の午後から夜間、翌朝に掛けてであって、今までの翌日お昼には「暁まいい」の雰囲気、本質が薄れてしまい市民の皆様にそれを伝える事が困難になると考えたからです。参加者の方にはよく賛同して頂けたと思っています。そういった過酷な設定で276名の参加者を頂戴し、見学者、運営者も含めると500名以上の規模で行われた様相は、冬季夜間の凍てつく寒さ



羽黒神社の大わらじも夜にライトアップされて幻想的に



約300人のランナーが一斉にゴールを目指します

に夜間の闇という過酷な環境に、照明の灯りやみんなの熱いエネルギーなどが相まって幻想かつ、鬱然とした雰囲気を醸し出していました。その様相は民放TV4局夕方のニュースで大々的に取り上げていただいた程でした。過酷な環境から得られる完走の達成感と完走後の豚汁、カレー、そば、クラムチャウダーなどのふるまいは格別なものだったと思いま



レース後に上位入賞者の方々と福島青年会議所阿部理事長とで記念撮影

す。また、当初懸念された怪我や事故などがなく、参加者の方々が笑顔で表彰式やふるまいを頬張る姿を見た時は、当初の目的などは忘れてしまうほど安堵しました。

本事業を実施させて頂き、改めて思うことは冒頭で御礼させて頂いた方々もでございますが、格別にまつり委員会の皆様への「感謝」があります。年末

年始の忙しい中、自分の仕事、家庭があるにも関わらず本事業、ひいては福島、福島市民のため、活動、運動を共にして頂きました事を誇りに思い、重ねて厚く熱く御礼申し上げます。

今回、本事業を計画、開催するにあたって様々な困難に事実直面いたしました。

なにぶん前例のない夜間実施、当初の計画段階で、たくさんの方々からご意見、叱咤激励を頂戴いたしました。途中挫折そうにもなりました。しかしながら、そこで奮い起こさせてくれたのは私の中にある「信念」でした。「目的は間違っていない」「必ず良い事業になる」という強い気持ちでした。また、目的や夜間開催に変更した理由とは別に、私個人の意見としては同じ事を繰り返し行っでは、最近使い古された「復興」という言葉と同じになってしまうのではないかと考えたからです。あくまで私なりの解釈で「復興」は元々あったものをベースに復活、復旧させて興す事だと考えています。震災前などから元々あったものを興して福島は活気付くのでしょうか？震災前の福島は活気があったのでしょうか？そんな疑問が私の中にはありました。もちろん私はその時、壮大に理論付けて本事業の計画してはおりません。ただ「新しい事がやりたい」「おもしろいことがやりたい」と考えただけです。そういった非合理的な意見、考えでも事業を行わせて頂いて、改めて、この福島青年会議所という団体は「新しい福



テレビ局の取材もありました



荣誉ある福男福女の名前が刻まれます。

島、新しい日本」を築くために必要な団体だと私なりに深く感じました。

最後になりますが、本事業「暁まいり福男福女競走」は今後ますます、市民の皆様、福島のために考え素晴らしい事業にしていきたいと思っておりますので、何卒、福島青年会議所共々、宜しくお願い致します。



ゴール後、安堵の表情の参加者たち

2月例会並びにドッジボール大会 設営にあたって

総務委員会 委員長 松田 覚



去る2月24日、福島市内の体育館において2015年度2月例会並びに福島青年会議所ドッジボール大会を開催致しました。ここ数年はボーリング大会・卓球大会と普段の例会後とは違った雰囲気のある大会を開催致しております。（福島青年会議所の例会とは、目指すべき運動の方向性や政策をメンバー間で確認する場、メンバーどうしの親睦を図る場として毎月一回様々な切り口でテーマを設け、開催しているものです）

直後にレクリエーションのドッジボール大会が控えているとはいえ、例会は最大限に厳粛な雰囲気を作るべく、普段と変わらない準備で会場を設営し、理事長挨拶では今後のJC活動・生活においても活かせる内容で、例会の重要性をメンバー一人ひとりが自覚できた機会でした。

例会終了後はドッジボール大会の開催です。開会宣言の後には準備運動が行われました。普段の生活では運動不足のメンバーも多いせいか、準備運動にラジオ体操を取り入れてのプログラムからちょっと

苦戦するメンバーも…。ただ大勢の人数で行うラジオ体操は、懐かしさもあり、自然と笑顔になっていくメンバー

も多かったです。子どもの頃とは少し違った感覚ですが、たまにはこういった体験もいいかもしれませんね。この後に大会説明を行い、ドッジボール大会の開催です。

ドッジボール大会は、会員メンバー80人を6チームに分けての開催となりました。設営側もメンバーが楽しめるかが不安でしたが、実際に始まるとそんな事はなく、歓声が飛び交う、熱気あふれるものとなりました。ちょっと普段の運動不足でなかなか動きが硬いメンバーもいましたが、みんなが一つのコートで一つのボールを追いかける姿は、観ているだけでも非常に楽しくなるものでした。普段は見れないメンバーの姿は新たな発見でした。

今回の事業目的が会員同士の交流であったため



に、普段交流の少ないメンバー同士が一緒のチームになるようにメンバー組を行いました。始めは少しぎこちない部分もありましたが、大会の途中からはチームで円陣を組んだり、会話が弾むなど、当初の目的も概ね達成できたのではないかと思います。

最後は表彰式を行い大会は閉会となりました。表彰式の景品は各メンバーが持ち合ったものです。最初から最後まで本当に手作りの大会でしたが、JCの楽しさを味わえたものになったと思います。

ドッジボール大会を開催するにあたっては、普段交流のない委員会メンバーとドッジボールを通して会員交流が深まったことにより、一定の目的は達成できたのではないかと考えております。設営側としましては現地視察を兼ねました委員会、会場での臨時委員会、そして前日の会場設営準備を経て、2月例会・ドッジボール大会を開催致しました。事前準備をしっかりと行うことで、メンバーが楽しめた設営が出来たのが何よりでした。福島青年会議所は厳粛な雰囲気がある中でも、メンバー同士に楽しんでもらい、さらに自分自身も楽しむことができる、色々

な要素が詰まった会だということを変更して認識できる機会となりました。



告知

新緑の信夫山を駆け抜けよう! 信夫山魅力発見! 第3回パークランニングレース ～信夫山を桃色に染めよう!～

来る5月17日(日)に3回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催致します。「パークランニング」は街なかを走る「シティランニング」と自然の中を走る「トレイルランニング」を合わせたものです。街の中央に位置する信夫山は、絶好のランニングスポットとなります。

3回目となる今回も、10km男女、5km男女、3km男女、3kmペアの7つのコースを設定して、記録に挑戦するランナーから家族や仲間同士で楽しむランナーまで幅広いランナーが満足できる仕様となっています。特に福島市のシンボルである信夫山の魅力を知ってもらい、観光資源としての認知向上に繋がっていただければと考えております。

パークランニングレースは単にレースを行うだけでなく、様々な魅力を発信してまいります。今回は食のブースとして桜の聖母女子短大との共同企画にて誕生した「桜の



聖母とのコラボ弁当2種」や地元企業とタレの開発から作り上げた「福島豚みそ生姜焼き弁当」、旬の地場野菜が中心の「地場野菜をたっぷり使った焼きそば」等、福島だから発信できる食の魅力を存分に味わって頂けたらと考えております。昨年もブースはとても賑わいまして、家族や友人同士で笑顔が絶えない時間でした。こちらはパークランニングレース参加者のみならず、一般市民の方もご飲食が可能となっております。※ご飲食は有料となっております。

パークランニングレースは「Pink Park Project」



として、太子堂公園並びに護国神社に桜の植樹を専門家の指導のもとに毎年行っております。3年目を迎えた今年はまだ小さい苗木ですが、10年後、20年後の春にはきっと信夫山をきれいな桜で彩っていきたいという思いでございます。



福島市は自然に恵まれ、果物や温泉街を有する観光資源豊かな街ですが、震災や原発事故の影響で観光客の減少で福島への関心が失われていると思います。そこで、福島市の中心に位置し、福島市の観光資源の象徴でもある信夫山に着目し、「自然と共存するまち」として福島市の魅力・地力をしたいという思いで、この事業を行います。

パークランニングはもちろん、それ以外にも色々な魅力が詰まった大会となっております。たくさんの方にご来場いただき、福島青年会議所の運動がみなさまに伝われば幸いです。会員一同お待ちしております。